

吹田市立はぎのきこども園（大阪府吹田市）

職員数：51名 在籍園児数：194名（令和4年2月時点）

【子育て支援事業】

「地域の親子が交流する場の開設事業」において、コース制の育児教室や、単発で気軽に参加できるものと、保護者のニーズに合わせて参加できるよう複数取組を行う。

- ・0・1歳育児教室／赤ちゃん会「あひる」「ひよこ」／1歳会「よちよち会」／2歳会「トコトコ会」／園庭開放（地域の親子が交流する場の開設、交流の場での情報提供・相談支援事業）

- ・一時預かり（一時預かり事業（施設型））

- ◆年間利用者数：赤ちゃん会「あひる」「ひよこ」：36名、／1歳会「よちよち会」：22名
2歳会「トコトコ会」：23名／園庭開放：36名／一時預かり：767名
（※0・1歳育児教室はコロナ禍で休止中）

- ◆財源：吹田市の公立園かつ地域子育て支援拠点事業として、市の予算を活用

子育て支援事業の内容

●0・1歳育児教室／赤ちゃん会「あひる」「ひよこ」／1歳会「よちよち会」／2歳会「トコトコ会」

【概要】

日 時	0歳育児教室 ※コロナ禍で休止中	1コースにつき3~4回実施(13:00~14:00)
	1歳育児教室 ※コロナ禍で休止中	1コースにつき3~4回実施 (9:30~10:30)(10:45~11:45)
	赤ちゃん会「あひる」「ひよこ」	各月1回(13:00~14:00)
	1歳会「よちよち会」／2歳会「トコトコ会」	各月1回(11:00~12:00)
場 所	園内 遊戯室	
担当職員	地域担当の保育教諭1名	
対象者	吹田市在住の未就園児・保護者	
利用登録	必要	
園や職員の役割	場所の提供、各会の企画・実施	

- 吹田市在住の未就園児・保護者に向けて、春・秋コースの育児教室（0・1歳育児教室）と、月1回開催の地域事業（赤ちゃん会「あひる」「ひよこ」／1歳会「よちよち会」／2歳会「トコトコ会」）を開催している。
- 育児教室は、体を使った遊びや散歩を楽しみながら、育児の交流や悩みの相談・友達作りなどができる。1コースにつき3~4回（コロナ禍前は連続7~8回）実施。
- 地域子育て支援拠点事業担当（園では「地域担当」と呼ぶ）の保育教諭を中心に、園の看護師などが講師を行っている。また、時には吹田市の保健師による健康講座や、図書館司書による絵本の読み聞かせなども開催。
- 赤ちゃん会「あひる」「ひよこ」、1歳会「よちよち会」、2歳会「トコトコ会」などの地域事業は、育児教室とは別に、単発の催しとして開催。いずれも事前申込が必要。

【取り組む上での工夫】

利用する親子にあわせて、開催方法や内容を柔軟に変更

- 育児教室では、申込人数によって、コース数を増やし、柔軟に対応している。
- 地域事業は、子どもの健康や子どもの遊びについて、交流からの学びの時間や実際の親子遊びの時間を設けて伝えている。子どもの発達に沿った遊びを伝える中で、何気ないこと（例えば、段差を飛ぶ、草を触る、石を拾う、ものを触る、なめる等）も遊びになるということが、保護者の新たな気づきになることが多い。
- 0歳育児教室や赤ちゃん会などでは、参加している子どもの様子を見て、その時々で、子どもへの接し方や遊びを決めている。
- 遊びについては、事前に複数種類を準備しておき、当日に参加している子どもの様子にあわせて内容を決めている。
- 地域事業だけではなく、保護者の育児相談も受け付けている。

【現在に至るまでに克服した課題とその対応策】

保護者のつながりづくりの手助けを重視

- 園のある吹田市は、転居者が多い地域である。実家が遠く知り合いもいない子育て家庭が孤立しているケースもあり、保護者同士のつながりづくりも課題だと園では考えている。
- そこで、育児教室は連続のコース制とし、参加する保護者が、何度も定期的に顔を合わせることで、保護者同士、あるいは子ども同士が仲間づくりを行うことも目指している。
- また、育児教室や地域事業の時に保護者から育児相談があった際、保育教諭に直接相談されることもあるが、ほかの保護者もいる場であれば、その場で声を掛けて話に参加してもらっている。
- 例えば、「子どもの夜泣きがひどい」と悩む保護者に「うちもひどかった」とほかの保護者が共感したり、きょうだいの育児経験のある保護者がアドバイスをしたりと、保護者同士が交流することで「ほかの家庭も同じだ」と安心したり、また保護者同士の交流が進んだりする効果がある。
- 保護者同士をつなぐために、保護者同士が話し始めたら、保育教諭は見守るようにしていることもある。
- 育児教室では、コースが終わった後、保護者が育児サークルとして自分たちでグループをつくることもある。

地域新聞を作り情報発信

- より園のことを知ってもらえる様に地域新聞を作り情報発信をしている。地域新聞は吹田市立のびのび子育てプラザなど、保護者が立ち寄る場所に設置・配布している。

●園庭開放

【概要】

日時	毎週水曜日(11:00~12:00)
場所	園庭
担当職員	地域担当の保育教諭1名
対象者	吹田市在住の未就園児・保護者
利用登録	必要 ※コロナ禍では予約制
園や職員の役割	場所・クリスマスや焼き芋など季節に合わせた行事の提供

【取り組む上での工夫】

コロナ禍にあわせ、人数を制限した園庭開放の実施

- コロナ禍前は予約なし・出入り自由であったが、コロナ禍以降は実施日の2週間前からの予約制としている。
- 1日7組までとし、密にならない空間づくりを心掛けている。また、参加者には、感染対策として以下の協力をいただいている。
 - ・同居者を含め普段と体調が違う場合、37.5度以上熱がある場合、検査中、自宅待機中の方がいる場合は参加を控えてもらう。
 - ・前日の夜と当日朝は、参加者が自宅にて検温を行う。来園時には、保育教諭が体温・体調確認を行っている。
 - ・参加者の手指の消毒。
 - ・遊びで使うものの共有はできる限りしない。
 - ・終わった後は、使った部屋の消毒、遊びに使ったものの消毒。

【現在に至るまでに克服した課題とその対応策】

- 先述のように、吹田市は転居者が多い地域であり、子育て家庭の孤立化もある。子育て家庭の孤立を防ぐためにも、保護者にはぜひ園庭開放などの地域事業に参加して欲しいと考えている。

●一時預かり

【概要】

日時	毎週月～金曜日(9:00~17:00)／毎週土曜日(9:00~12:00)		
場所	園内一時預かりの部屋		
担当職員	保育教諭(非正規)2名		
対象者	吹田市在住の未就園児、在園児		
料金	毎週月～金曜日(終日)	3歳児未満 :2,500円	3歳児以上 :1,500円
	毎週土曜日(午前のみ)	3歳児未満 :1,250円	3歳児以上 :750円
利用登録	必要		
園や職員の役割	場所・保育の提供		

- 未就園児の一時預かりでは、緊急や育児のリフレッシュのほか、断続的な就労などを理由とした長期(週3まで/6か月以内)の預かりを受け付けている。
- 未就園児の一時預かりでは利用前に親子に面接を行い、子どもの健康状態やアレルギーの有無、日頃の接し方、様子などを把握している。

【現在に至るまでに克服した課題とその対応策】

- 地域の方のニーズはとて高いが、子育て環境や利用条件が違う中その都度の対応や職員同士の情報共有や連携が必要と感じている。

子育て支援事業を更に充実させていく上での課題・要望

- コロナ禍の影響により、育児教室の回数を減らしたり、地域事業を予約制にしたりと、利用者制限を行っている。しかし、地域の方からの要望は高く、子育て支援事業を利用したいという参加者は多い。
- また、地域の保護者が、コロナ禍においてどのようなニーズを求めているかアンケートを行ったところ、WEBツールやオンライン会議のアプリケーションを使った遊びの提供や悩み相談の需要が高いことがわかり、実施を検討している。
- ただし、公立の園は、WEBツールやSNSの活用について行政による規制もあり、個人情報を守り、より安全で平等にかつ利用しやすくするにはどうしたらよいか検討している。

子育て支援事業と地域子育て支援拠点事業の連携状況

- 同園が大阪府吹田市の地域子育て支援拠点となっている。
- 同市の地域子育て支援拠点事業の中央機関である吹田市立のびのび子育てプラザが中心となり、各園の取組内容の交流や意見交換、実績確認や課題解決に向けての会議を行っている。
- また、のびのび子育てプラザに活動状況などを報告し、園の行事などを同施設のHPに載せて情報発信している。

【子育て支援事業で大切にしている思い】

子育て支援事業で一番大切なことは、保護者の思いに寄り添い一緒に考え、『わが子が可愛い』と感じ、子育てを楽しんでいけるようにサポートしていくことだと思っています。ぜひ園に足を運んで頂き、親子で楽しい時間を過ごすとともに、親子ともに友達づくりのきっかけにさせていただきたいです。子育てで困ったことなどは一人で抱えず、園の地域担当保育士に相談しようと思って頂けるような施設でありたいと思います。保護者の方からは「地域開放行事を利用して友達が出来た」「ほかの方の話を聞いて、みんな同じだとホッとした」「来てよかった」などという声を聞くことがあり、嬉しく思います。子育てを気負わず、地域の中で子どもたちが育つ環境を作っていきたいと思っています。